

地域医療と住民福祉の実態を知り、医療・社会保障のあり方を考える ～いのちが守られる地域、災害に強い地域をつくろう～

医療・介護などの現場で働く人々の視点に加えて、患者・地域住民の視点を付け加えるとどのような景色が広がっているのでしょうか。両者の視点を出発点とするのが本分科会です。

地域で患者・住民とともに、医療や介護等に関してどのように考え行動すべきか、各地の取り組みから学んで、半歩前へ進めてみませんか？

新型コロナにより、現場はすでに 1 年以上、高い緊張を強いられています。その一方で、公立・公的病院の再編統合など、地域の医療・介護体制を縮小する政策は粛々と進められています。医療がひっ迫して「緊急事態宣言」にいたっても、病床を減らし医師・看護師の増員を抑える地域医療構想などの計画はそのまま進められています。自助と自己責任の「全世代型社会保障」も具体化されようとしています。

こうした政策により、医療や介護、社会保障が患者・住民から奪われることのないよう、受療権保障・人権保障の担い手としての役割が、いっそう医療・介護労働者には期待されます。

新型コロナや様々な災害や困難に直面した現場やスタッフ、患者・住民の経験などから、どんな時にも、どこに住んでも、いのち・暮らし・人権が守られる「安心して住み続けられる地域づくり」を考えていくのが大切です。各地の経験、現場の実践を持ち寄って、「医療から介護へ」「施設から地域へ」「川上から川下へ」という政策が進められるなか、地域でどのように患者・住民とともに医療や介護、社会福祉を考え行動するのか。互いに学び交流し、楽しく語り合う分科会としたいと思います。

【募集するレポート（例）】

- 地域で患者・住民とともに取り組んだ受療権・健康権保障の実現に向けた取り組み。地域における労働組合の役割を確認できた事例。住民とのつながり、他の組織や事業所との連携の事例等。
- 患者・地域住民の方々に医療・介護の現場の実態を理解して頂く活動の実践。地域調査などを通じて医療や介護の現状を把握する活動等。
- 地域医療構想や地域包括ケアシステムの構築など、国・自治体の政策に関連する活動の実践。会議の傍聴、医師会や自治体職員との連携。地域の「通いの場」「サロン活動」など住民サービスの受け皿づくりの実践。政策方針に関する学習会など労働者と住民が学び行動するための活動等。
- 新型コロナのもとでの医療・介護現場や地域の実態、直面した問題・課題とその解決に向けた実践や経験。現場・地域の実態や現状から見えてくる国・自治体の対策や制度・政策の課題等。
- 災害の実態や災害時の労働組合の役割、地域連携などに関する経験や教訓。大規模災害に備えた訓練、日常の防災対策、病院・施設の避難計画や BCP の策定、住民参加の計画策定などの経験等。

※いずれも成功事例を求めているわけではありません。現在、奮闘中であるといった報告や、これから地域に一步、足を運んでみようと思案中の報告を歓迎します。

【第一分科会運営委員】

塩見 正 京都医労連
山本 隆幸 北海道医労連
若藤 美鈴 愛媛県医労連

【第二分科会運営委員】

茂原 宗一 長野県厚生連労組
吉田 岳彦 北海道医労連
井上 純 徳島県医労連

【助言者】

長友 薫輝 三重短期大学教授